



にし阿波の傾斜地農耕システム

世界農業遺産

GIAHS

GLOBALY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS



世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」 認定5周年記念シンポジウム

～過去を振り返り、そして、みんなで創る未来へ～

2023. **3/5** 日 13:30～ (受付: 12:30～)

会場: つるぎ町就業改善センター / 先着: 100名

参加費: 無料

- 12:30～ 受付
- 13:30～13:35 オープニング・あいさつ 高井 美穂 (徳島剣山世界農業遺産推進協議会副会長、三好市長)
- 13:35～13:40 来賓・あいさつ 藪下 武史 様 (徳島県西部総合県民局長)
- 13:40～14:10 記念講演「にし阿波の未来への道標」
林 博章 (鳴門渦潮高校教諭/P h. D (環境人類学))
- 14:10～14:40 地域の取組発表【聞き書き事業】 徳島県立脇町高等学校、徳島県立池田高等学校本校・辻校
- 14:40～15:10 地域の取組発表【活動報告】 徳島県立脇町高等学校、徳島県立池田高等学校本校、
徳島県立穴吹高等学校
- 15:10～15:20 休憩
- 15:20～15:35 教育旅行の取り組み報告 前田 志穂 様 (一般社団法人そらの郷 教育旅行カンパニー 課長)
- 15:35～16:25 パネルディスカッション
パネリスト: 佐藤 全俊 様 (リヒター・カメラマン)
井下 奈未香 様 (有限会社 WORLD COLLECTION)
枋谷 京子 様 (家賃再生プロジェクト代表)
平野 重秋 様 (西庄良所会)
コーディネーター: 田口 真示 様 (田口農園代表)
- 16:25～16:30 クロージング・あいさつ 古城 忠美 (つるぎ町副町長)

【主催】 徳島剣山世界農業遺産推進協議会

世界農業遺産とは、人類の遺産として保存すべき重要な農業システムを国連食糧農業機関 (FAO) が認定する取り組みです。にし阿波の山間部で暮らす人びとは、急傾斜地という厳しい環境で農業を営むために、様々な知恵や技術を培ってきました。また、こうした知恵や技術に支えられた土地利用によって、美しい農村景観や生物多様性の育みが2018年3月、にし阿波地域及び「にし阿波の傾斜地農耕システム」として世界農業遺産に認定されました。

認定から5年。これまでの取り組みや変化を振り返り、これからのにし阿波の活性化について考えます。



アクセス

つるぎ町就業改善センター (駐車場 有)
徳島県美馬郡つるぎ町貞光字宮下 61
【公共交通機関】 JR 徳島線 貞光駅下車 徒歩約 6分
【車】・自動車道利用: 徳島自動車道 美馬 IC 下車 約 10分
・一般道利用: 国道 12 号沿い 道の駅貞光ゆうゆう館から約 5分

お問い合わせ

徳島剣山世界農業遺産推進協議会事務局 (つるぎ町役場 産業経済課)
TEL: 0883-62-3111 (代) FAX: 0883-62-4944
E-mail: fujimoto-ma@tsurugii.tokushima.jp

世界農業遺産

「にし阿波の傾斜地農耕システム」 認定5周年記念シンポジウム

～過去を振り返り、そして、みんなで創る未来～

2023. **3/5** 日 13:30～ (受付: 12:30～)

会 場: つるぎ町就業改善センター

徳島県美馬郡つるぎ町貞光字 61

参加費: 無料

【講演者】



林 博章 氏 (鳴門渦潮高校教諭 / Ph. D (環境人類学))

忌部文化研究会会長 (一般社団法人忌部文化研究所)。2013年に剣山系の世界農業遺産化を提言。基本原案作成。2022年11月に「剣山系の世界的農業文化遺産～持続可能な社会への道標～」で IOUF (アメリカ) から環境人類学、アステカ大学より環境学の博士号。現在、家賃再生プロジェクトの各種事業の企画と運営を実施。著「倭国創生と阿波忌部」・「オオゲツヒメと倭国創生」・「剣山系の世界的農業文化遺産」など。

【コーディネーター】



田口 真示 氏 (田口農園 代表)

1963年生まれ、東みよし町出身。

2017年郷土へUターンし営農を開始。多品種・少量生産により変動リスクを回避して経営の安定化を図るとともに通年で100アイテムを直売所へ出荷する体制をつくり、にし阿波傾斜地農耕システム認証ブランド品としても61品目の生産を行っている。

2018年には「農家民宿 (Gunung Geulis)」を開業し、「作る・創る・学ぶ」をテーマに食育を基本に農業への興味を深める取り組みを行う。

【パネリスト】



佐藤 全俊 氏 (カメラマン)

美馬市出身。

徳島県にし阿波地域を中心にカメラマンとして活動。

おもに地域の観光や農業のPR動画や nishiwagiahs インスタグラムの写真を担当。



井下 奈未香 氏 (有限会社 WORLD COLLECTION)

1982年生まれ、奈良県出身。

2014年結婚を機に三好市へ移住後、休耕地を開墾しワイン用葡萄園を開始し、2023年現在の自社園場は1haを超え、拡大中。委託醸造で商品化をはじめた自社葡萄を使ったワインは、2021年に三好市池田町に設立した「Natan 葡萄酒醸造所」にて全行程を自社で行っている。



枋谷 京子 氏 (家賃再生プロジェクト代表)

家賃地域の伝統的な農法・文化継承を目的に、世界農業遺産でもある「にし阿波の傾斜地農耕システム」を活かし、藍栽培を復活させ、無農薬・有機肥料で栽培した藍を県内の企業と連携し、「食べる藍」として商品開発や販売を行っている。さらに、傾斜地農法を含めた家賃地域の魅力を伝える観光ツアーの実施や視察の受入れ、農福連携の取組等で多くの団体と交流を図っている。家賃集落の藍栽培が海外で紹介されるなど、国内外での本地域の知名度の向上に寄与し、交流人口を拡大し、地域活性化を図っている。



平野 重秋 氏 (西庄良所会 会長)

東みよし町出身。長年林業関係の仕事に携わる。

廃校になった西庄小学校の有効利用のために西庄良所会を結成し、会長として、地域の食と農を次代に伝える活動を実施している。西庄良所会は、水車小屋の復活と活用、そばの生産、利用や、「水の丸高原ウォーク」の開催等により、地域の魅力発信に取り組んでいる。地域内外の人との共同作業によるコエグロづくりのイベント等を開催し農業遺産の保全と継承に貢献している。

【報告・発表者】



前田 志穂 氏

(一般社団法人そらの郷 教育旅行カンパニー 課長)

つるぎ町出身。

美しい自然の中で暮らす人々との生活体験を通じて、心高まる交流ツーリズムを推進しています。

【参加高校】

■聞き書き事業

徳島県立脇町高等学校、徳島県立池田高等学校本校・辻校

■活動報告

徳島県立脇町高等学校「カヤの保水性に着目した伝統農法の効果の検証」
徳島県立池田高等学校本校「傾斜地農業を支えるものたち」
徳島県立穴吹高等学校「Japan Tea 染めて繋がるわたしたち」



GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS
世界農業遺産
GIAHS